

平和教育カリキュラムの実践と課題

東京純心女子高校での教育方法、海外のカリキュラムに着目して

松永 幸子

要旨

平和教育カリキュラムの学校現場での実践例として、特徴的な平和教育を行っている中高一貫校である東京純心女子高等学校の平和教育カリキュラムを取り上げた。東京純心女子高校では、中学校での学習の準備期間を経て、ホロコーストや人権について学び、ボランティア活動、合唱等をとおした幅広く重曹な平和教育が実践されている。とりわけ、全校生徒が体験する長崎研修は、被爆者の講話や演劇を鑑賞したり、それを学園祭で発表するなど、平和や人権、生命の尊重について学ぶことが出来るプログラムになっている。また、各地方自治体にカリキュラムが任されているアメリカやカナダでは、各州がそれぞれの平和教育カリキュラムを構築しており、ゲーム方式の他、市民教育においても音楽や絵画という芸術作品による評価も用意されており、このような評価の仕方についても日本に示唆を与えるものとなっていた。

はじめに

今年、日本は被爆 78 周年を迎える。被爆 70 周年時の NHK による世論調査では、広島に原爆が投下された年月日を正確に答えられた人は、被爆地以外で約 30%であったという。また、普段原爆のことを話題にすることがありますか？という内容の問いについては、被爆地以外では、「あまりない」と「殆どない」が合わせて 70%以上に上った (NHK, 2015)。日本において、平和教育は各学校に一任されており、学校によっては特別活動、たとえば修学旅行で広島や長崎を訪問することで実践してきた。また、各教科、特に社会科の歴史の授業で取り上げる形で戦争の被害や加害について学ぶ場合もある。しかしながらグローバル化に伴い、近年、修学旅行先は海外である学校が増加し、または行く先は希望選択制にするなど、広島長崎への修学旅行は定番ではなくなってきた。

このような状況の中で、学校現場では平和教育がどのように実践されているのか。本稿では、具体例として、独自の平和教育カリキュラムを実践している東京純心女子高校を取り上げる。また、海外での平和教育はどのようになされているのか。主にアメリカ、カナダの例を取り上げ、検討する。

I 学校現場での実践例

本章では、平和教育を重視している中高一貫校である東京純心女子学園（以下、当校とする）の高等学校の平和教育カリキュラムを取り上げる。

当校は被爆地長崎に本校があり、本校は原爆の被害で約 200 名の生徒と教職員が犠牲になっている。また、東京大空襲のあった地域に建立されたことから戦争・平和教育に力を入れている。高校での平和教育は以下のようになっている。

第 1 学年 ハンナの靴講演会の実施

長崎研修事前学習・発表会

留学生歓迎イベント

青来有一『爆心』の購読と感想文

第 2 学年 長崎研修

長崎研修事前準備、事後学習

まず、1 年時のハンナの靴講演会では、ホロコーストについて学ぶ。ハンナ・ブレイディは、1931 年 5 月にチェコスロバキアで生まれた。13 歳の時、ナチスによってアウシュビッツ収容所に送られ、殺害された。その時、ナチスによって、たった一つだけ所持することを許されたハンナのかばんが、強制収容所の遺品としてホロコースト教育資料センターで展示された。代表の石岡史子氏が、このカバンに記載されていた氏名からハンナという人物を探し、その生涯をたどり、兄のジョージが存命していることが判明する。石岡氏はジョージと交流し、ハンナやジョージの人生について知識を得ることが出来た。石岡氏らによるドキュメンタリー作品等から、教師を目指していたハンナがユダヤ人故に迎った悲惨な運命について学ぶ。また、そこから生命や平和の大切さや、人権、多様性等について学ぶ機会になっている。

2 年次の長崎研修では、被爆地長崎を訪れ、実際に原爆の被害にあった人々の話を聴き、また、被災した建物等を見学することにより、被爆の実相を知り核兵器や平和、人権について考える機会となっている。3 泊 4 日で行われる。

行程は、たとえば 2019 年度は以下のようになっている（松永、2020）。

1 日目

平和さるく：グループごとにガイドと歩く

浦上天主堂訪問：神父様のお話・平和の祈りを捧げる

2 日目

純心女子高校訪問

両校生徒でクラスに分かれ、平和についてのグループディスカッション・
クラス内で各グループ発表

全体会：各教室代表者の発表・千羽鶴合唱

純女学徒隊殉難の碑への献花

原爆ホーム訪問

ホームの方々による朗読劇鑑賞

入居者との歓談

江角先生の墓参 献花

宿舎にて：平和体験文作成メモ

3 日目

午前：長崎市内自由行動

午後：軍艦島またはパールシーリゾート

4 日目

九州国立博物館見学

大宰府天満宮見学

*毎日、研修内容を各自で記録する。

1 日目の平和さるくの「さるく」は長崎弁で「歩き回る」を意味しており、長崎市が観光事業として実施している「長崎さるく」を平和ヴァージョンとした本校のオリジナル活動名である。浦上天主堂、長崎原爆資料館、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館、平和公園、爆心地、山王神社（被爆クスノキ）や爆風により片足となった一本足鳥居等を見学して回る。爆心地から約 800m の地点に存在する山王神社のクスノキは、樹齢約 5-600 年になる。原爆被災により枯れ木同然になったが、約 2 年後、奇跡的に新芽を吹いた。その幹に空洞が出来、爆風で飛ばされたガラス片などがその中に入っており、当時の熱線、爆風の壮絶さを証明している。

2 日目には、本校である姉妹校を訪問し、両校の生徒で平和についてグループディスカッションを行う。事前学習として、スティーブン・オカザキ監督のドキュメンタリー「ヒロシマ・ナガサキ」を視聴し、前長崎原爆資料館長で作家の青来有一氏の『爆心』を購読している。「ヒロシマ・ナガサキ」は、監督がインタヴューアーとなり、広島と長崎の被爆者 14 名と原爆投下に関与した米国側の 4 名に取材したドキュメンタリー映画で、日米双方の立場から原爆について考察できる内容になっている。

青来有一の『爆心』は、被爆二世でもある青来氏が執筆した短編集であり、特有の語り口で原爆の実相を描いている。原爆そのものをクローズアップするのではなく、恋愛や日常に絡めて、原爆の傷跡を描写している。たとえば、思いを寄せる男性がいても、女性は

積極的になれない。じつは女性の足には、原爆の爆風により刺さったガラス片の傷跡がある。また、別の章では、道を歩いている少年に、浦上川の石が、「水を下さい」と話しかけてくる(青木、2010)。このように、日常の何気ない場面に原爆の影があらわれる。静かで、しかし現実味を帯びた鋭い描写に読み手はひきつけられ、印象深い作品となっている。生徒たちは、これらのドキュメンタリーや小説により、被爆の実相を知識として学び、2年生での長崎体験に備え、自分自身の考えをまとめたり、ディスカッションを行う。

2日目には、長崎市恵の丘に立つ原爆ホームを訪問する。原爆ホームは、当該校の創立者が、原爆で子どもを失った親のために建立したものであり、被爆者であれば誰でも入居できることになっている。生徒たちは、ここで被爆者の証言を聴き、被爆者による原爆劇を鑑賞する。被爆者は被爆の状況、被爆時点での年齢、性別、爆心地からの距離、亡くした家族や友人の数、その後の人生における差別経験等、原爆による被害はそれぞれであり、自分自身の体験をもとに演劇を行う。

長崎研修について、校長である松下氏は次のように説明している。学校が1935年に設立されて、10年経つか経たないうちに原爆の被害にあった。爆心地から1.3kmしか離れておらず、創立者江角氏も爆風でがれきの下敷きになっていた。しかし、通りかかった人により、江角氏は奇跡的に助けられた。しかし、火事で学校は焼失してしまった。生徒207名、教職員7名が死亡した。当時の校長だった江角氏は、生徒や教職員を死なせてしまったのは自分の責任とし、県の学事課に校長の辞職願を提出する決意をした。しかしながら、県は、学校の復興を江角氏に促し、辞職願を受け取らなかった。また、原爆で苦しみながら逝く子どもを看取った親たちからも、ぜひ学校を復興してほしいという要望があった。そのため、江角氏は、学校運営を継続し、人の喜びとなる人を育てていこうと決心したという。このようなルーツがあるので、平和教育を大事にしている、と松下氏は話す。松下氏自身も、原爆ホームでの被爆劇を鑑賞する。被爆劇を初めて観た時、そこでは、原爆の被害だけではなく、それを元にいじめられるなどの体験がなまなましく再現されており、自分自身、何も知らなかったのだと衝撃を受けたという。生徒たちは皆、泣いており、そのような体験をすることが、戦争は絶対にいけないという思いにつながると氏は願っている。

長崎研修は平和教育の集大成であり、国語科、宗教科、音楽科等、各教科の教員たちが図書館と連携するなどして、長崎の歴史や文化、文学作品等、長崎について多方面から学ぶ。生徒たちに知識を与えるのではなく、体験をさせることにより、自分ごととして平和を考えてほしいという思いがある。

長崎研修では、東京と長崎の生徒たちが交流し、合唱を行うが、それには「共に平和に向かって協力する」という思いを持ってほしいという狙いがあるという(松下、2017)。

「千羽鶴」は被爆50周年に長崎市が歌詞を一般公募し、同市出身で日本アカデミー賞最優秀音楽賞等数々の賞を受賞し活躍する音楽家大島ミチルが作曲した。この曲は、毎年8月9日に市により実施される平和祈念式典で本校の生徒により合唱されている。歌詞は次

のようになっている。

千羽鶴 作詞 横山鼎 作曲 大島ミチル

1. 平和への誓い新たに 緋の色の鶴を折る
清らかな心のままに 白い鶴折りたたみ
わき上がる熱き想いを 赤色の鶴に折る
2. 平和への祈りは深く 紫の鶴を折る
野の果てに埋もれし人に 黄色い鶴折りたたみ
水底に沈みし人に 青色の鶴を折る
3. 平和への願いをこめて 緑なる鶴を折る
地球より重い生命よ 藍の鶴折りたたみ
未来への希望と夢を 桃色の鶴に折る
未来への希望と夢を 虹色の鶴に折る
(長崎市ホームページより引用)

以上のように歌詞中、十色の鶴が描かれているが、最後は虹色であり、多様性を想起させるものとなっている。ここでは、本曲を歌唱する活動の背景として、本校出身で被爆二世の作曲家である大島ミチル氏が、本曲について、また、被爆について語った内容について触れておきたい。「渋谷のラジオ」は、箭内道彦氏や俳優らによって、2015年に設立されたコミュニティF.Mで、NPO法人CQによって運営されている。その渋谷社会部「長崎からみらいへー被爆講話と若者たち」は、設立当初より継続して、筆者が企画放送、パーソナリティを務めている番組であり、長崎、広島 of 被爆者が被爆体験を若者に伝える内容となっている。その第2回目に登場した大島氏は、番組の中で、平和教育について次のように話している。

大島氏：私は母が被爆者で被爆二世です。子どもの頃学校から帰ると、母が原爆の落とされた話を毎日する。今も詳しく話してくれる。吉永小百合さんの朗読の音楽を手掛けるようになって思い出すようになった。パリはテロがあっいつも心配する。平和というものは、日常生活を安心して暮らせることではないかとしみじみ感じる。

母は買い物に行こうとして玄関を出たときに、棚の臼が落ちて怪我をした。町にはたくさん火傷した人が倒れていて、気を失って軍医に手当してもらって生死をさまよった。母の兄弟も生き埋めになって亡くなった。母が私に被爆二世ということは言わないようにしなさい。差別されるかもしれないから。と言ったときに、なぜ被爆者が差別をされるのか、

怒りを覚えた。そのような体験からか、曲を書こうとすると、祈りなどが自然とテーマになる。

ロシアやハンガリーに行つて演奏する時、その国の言葉はできなくても譜面で通じるものがある。音楽は言葉や人種を超えたもの。相手の立場になって考えると、お互いに共感できることもあるのではないか。それが遠いところ、シリアやイラクの人に対する遠い国の人に思いを寄せることになる。音楽は世界中の言葉である（大島、2016）。

千羽鶴は長崎市から依頼されて大島氏が作曲したという。大島氏は、祈るような、あたたかい、夢のある曲にしたいと考えたという。千羽鶴の演奏時に、演奏家が泣きながら演奏しているのに驚いたという。長崎の演奏家なので思い入れがあったのではないか。音楽も言葉も心に響くことが大事であると大島氏は主張する。

大島氏：現在在住しているフランスでは、歴史をきちんと伝えるために、戦争の映像でも残酷なものも時には見せる。被爆者が段々少なくなっているのに危機感を感じるし記録に残してほしい。本当に起こったこと、真実を知ってほしい。大人でもあらためて戦争の残酷さを思う。その「あらためて」が大切だと思う（大島、2016）。大島氏は、虹色について、色々な色、すなわち、多様な人種、言葉、動植物があるからこそ、平和であり、他者とのコミュニケーションの中で、たとえば、お店で作ってくれる人への感謝も「祈り」の一つなのではないか。と考えている。本曲は現在、長崎原爆資料館や市など多様なところで使用されている。

このような想いで創作された楽曲の合唱や被爆講話、被爆劇をとおして、生徒たちは、他者への共感と平和の大切さを学ぶ。被爆者の講話を聴き、自分では経験できない体験や痛みを想像する力、今後どのようにしたら平和を構築していけるかなどの課題について自ら考える力も養う。被爆体験を聴きながら涙を流す生徒もいるという（松永、2020）。共感の重要性については近年さまざまところで注目されているが、200年以上も前から、生命についての論争の中で、哲学者ヒュームや文学者らによって主張されてきている（松永、2012、Hume, 1739）。

生徒たちは、これらの長崎研修での学びをポスターや作品にして、文化祭で発表する。また、当校の付属中学校では、2年生でマザーテレサの生き方を学ぶ。生徒たちが新聞を作成する。さらに3年生では八王子空襲にあった地元の話の聴く体験を行っている。生徒たちによれば、八王子は学校のある場所であり、そこで空襲であり、身近に感じられるという（斎藤、山鹿、2021）。

同校が、平和につながるものとして取り扱うのは戦争問題だけではない。たとえば高校1年生では、社会科の授業で、貧困問題について、クラスで研究して発表する機会もある。戦争や犯罪が起きる背景には、貧困の問題も無関係ではない。国内外の市民の経済的状況について学ぶことは、平和構築の礎となる。留学生を呼び交流イベントを開くことも国際感覚を育成し、他者、他国への理解が世界平和につながる小さな第一歩となっている。

前述した原爆ホームには、自分たちの手作りのお菓子の差し入れや、踊りを披露するために訪問することもある。これらに加え、東北大震災後は東北ボランティアも行っている。酪農家の手伝いや農作業等を地元の人たちと協力して行う。

さらに、終業式に平和のつどいを行うこともある。歌などで、平和の大切さ、戦争の悲惨さを心に誓うという。

松下氏は、「平和とは、戦争がないだけではなく、私たちが自由に学びたいと思ったときに学べる社会であり、そのような社会の実現に一人ひとりがどのように貢献できるかを6年間をとおして学んでもらいたい。そのためにも長崎研修を続けたい」と主張する(松下、2017)。そのために同校が重視しているのが、人とのかかわりである。

このような学びが、人や自然、平和を愛する心へとつながっている。

II アメリカ、カナダの平和教育カリキュラム

前章では、日本における高校での平和教育の実践を取り上げた。続いて本章では、海外における平和教育カリキュラムを取り上げたい。平和教育カリキュラム編成に関する国際比較研究に中矢礼美の研究がある(中矢、2012)。本稿では、中矢の論文を主に参考にして検証を進めたい。

中矢によれば、アメリカ、カナダでは、「平和」をカリキュラム名称に直接用いており、平和教育を主目的とすることが明示されている。平和教育カリキュラムは、教科統合型とそうでない独立型が存在し、アメリカ、カナダは教科統合型になる(中矢、2012)。

アメリカの平和教育カリキュラムには、一例として次のようなものがある。

対象：幼稚園～第8学年まで

カリキュラム名：The Peace Games Curriculum

カリキュラムの目的：ゲームを中心としている。ピースメーカーになるための知識、スキル、関係構築力を向上させるための教材の提供。

教育目標：学校や地域でポジティブに課題解決できるピースメーカーを育成する。

カリキュラム構造：自己認識とアイデンティティ、感情と平和構築との関係、友情と愛情、いじめ、等についての知識とコミュニケーション、コンフリクト解決、参画等のスキルを学習する。経験型カリキュラムで関係構築力、社会参画力等を向上させる。

教授法：ゲームかたの経験活動的な手法を用いる。

評価方法：生徒が自分で学習活動と学びを評価する。

対象：中学校および高等学校

カリキュラム名：64Ways to Practice Nonviolence

カリキュラムの目的：教師に対して、多様な教科に統合して平和教育が実践できるように教授ガイドが作成される。

教育目標：批判的思考スキル、口語および文語によるコミュニケーションスキル、市民参

画、新しい道の探求、非暴力の実践を伴う経験、創造的な質問を引き出し、思想、反省、対話をファシリテートする。

カリキュラム構造：鍵となる4つの概念、文化、暴力、パワー、非暴力理解プログラムを基盤として、64日間のプログラム（個人の次元23日間、個人間の次元23日間、コミュニティ・社会の次元18日間）が構成される。各プログラムは、教科領域（芸術、演劇、経験、ライフサイエンス、数学、調査、社会科学、言語）と言語リテラシーに関するカリフォルニア州スタンダードとの関連が一覧表で示されている。

教授法：探求と対話を深める。社会科学の授業ではパネルディスカッションを行う。課題や小グループでの話し合い等。聴く姿勢、考えを共有することの意義に気づく。

評価方法 設定なし（中矢、2012）。

一方、カナダの事例としては次のようなカリキュラムがある。

対象：第10, 11, 12学年

カリキュラムの目的 カナダの教師やコミュニティリーダーが「変化のための教育」を行えるよう学校の教室で使える教材

教育目的：平和尊重・非暴力・公正・多様性・人権に価値を置き、社会の不正を認識し、グローバルに考え、共同、交渉といった平和的方法によってコンフリクトに対応できる市民を育成する。

カリキュラム構造：いくつかのコースがあり、それぞれ教科単元、テーマとの関連を示す。

教授法：活動ベース学習。学習者の活動への参加を効果的に促進する方法。教師は知識を与えるだけでなく、学習者の学習参加に対して反省を促すような批判的役割。

評価：概念学習評価は多様な方法で実施する。絵画やエッセイ用語等。態度変容についてオンラインでアンケート。ピア評価、自己評価も出来る（中矢、2012）。

アメリカ、カナダでは多くの場合、教師はファシリテーターの役割を担う。しかしながら、平和教育を受けていない教師の場合、どのような対応をすべきなのか戸惑うのではないかと中矢は指摘する。その点において、Peace Game curriculumは、教師の発言や態度についてまで細かく記載されているという（中矢、2012）。

このように、アメリカ、カナダにおいては、平和教育と冠したカリキュラムが存在しており、教育内容、プログラムは、各州、各自治体に一任されている。そのため、国家が教育プログラムを策定するのではなく、地方独自のカラーを生かしてカリキュラムが組めるところは、地域性や特色が出せる点において自由度が高い点が利点である。

そのほか、オンタリオ州においては、多様性についての教育や人権教育に力を入れている。たとえば、2015年に導入された4学期制の教員養成プログラム（The Enhanced Teacher Education Program: ETEプログラム）では、「構成と多様性(equity and diversity)を大学の教員養成カリキュラム上で扱うことが義務化されたために、大学が必修科目において多様性についての学修が普及しつつある（児玉、2020）。また、メディア・リテラシー教育

について、たとえば、「英語」の授業において、社会的に周辺化された人々が、なぜそのように描かれるのかについて考えさせることで、差別などの人権問題の起きる原因から考えさせる能力が育成されている。これは人権を道徳等で考える日本とは違った視点で、メディア・リテラシー教育を批判理論などから展開させ、言語とのつながりで学修させてきた欧米との差異だと森本は指摘している（森本、2010）。

おわりに

本稿では、平和教育について、東京都にある私立高校の具体的な実践例とアメリカ、カナダのカリキュラムの事例を取り上げた。東京純心女子高校では、中学校から高校まで、長崎研修を中心として、ホロコースト、人権やボランティア活動をとおした生命の尊重を学ぶ幅広く重曹な平和教育が実践されていた。また、各地方自治体にカリキュラムが任されているアメリカやカナダでは、平和教育と冠したカリキュラムが実践され、ゲーム方式の他、市民教育においても音楽や絵画という芸術作品による評価がされるプログラムも用意されており、評価の仕方についても日本に示唆を与えるものとなっていた。

日本では、平和教育の実施は、各学校が教科としてではなく、社会科や特別活動として、学校が独自で組み入れる形で行われている状況がある。日本は先の大戦時に、修身という科目で、忠君愛国を教え込み、臣民の育成をしてきた歴史を持つ。そこでは偏狭な愛国心が育成されていた（山住、1987）。この過去の過ちを踏まえれば、平和教育は国家が統一的に主導すべきではないと考える。「平和」とは何か、という慎重で自由な議論が常になされる必要があり、それこそは各地方自治体が地方の特色を生かして実施すべきであろう。教師の役割は、アメリカ、カナダの例でも見たように、多くの場合、ファシリテーターである。教師は適切なファシリテーターとしての振る舞いを学ぶ必要があるが、これも国家が基準等について統一すべきではなく、各学校での自主的な勉強会で自由に議論、研磨されながら、そのスタイルが教師自身によってあるいは生徒と教師によって編み出される。そのような時間の余裕を生み出すための教員数の確保、教師の労働環境の改善が必要となるだろう。

各学校が特色ある平和教育カリキュラムを構築するために、学校と教師のハード・ソフト両面での環境整備が待たれる。また、本稿では、海外の平和教育について、先行研究を参考に、アメリカ、カナダのいくつかの州のカリキュラムのみを取り上げた。更に国内外の他の平和教育カリキュラムとその実践についての探究を今後の課題としたい。

参照文献等

- 中矢礼美(2012)「平和教育カリキュラム編成に関する国際比較研究：アメリカ・カナダ・インドネシアの事例」『広島大学国際センター紀要』2号、16-30頁
- 森本洋介(2010)「カナダ・オンタリオ州の1999・2000年度版および2007年度版英語カリキュラムにおける人権の位置づけの異同：メディア・リテラシー教育に着目して」『カリキュラム研究』第19号、日本カリキュラム学会、99-110頁
- 児玉奈々(2020)「オンタリオ州の大学の教員養成プログラムにおける多様性：カリキュラム設計の考察」『カナダ教育研究』カナダ教育研究会、50-52頁
- 山住正巳(1987)『日本教育小史』岩波書店
- 青来有一(2010)『爆心』文藝春秋
- カレン・レビン(石岡史子訳)(2006)『ハンナのかばん』ポプラ社
- 松永幸子(2020)「特別活動・学級経営と人権教育：豊かな人間性を育む学校現場(東京純心女子学園)の取り組みを中心に」『成蹊大学教職課程年報』30号、43-53頁
- 松永幸子(2012)『近世イギリスの自殺論争：自己・生命・モラルをめぐるディスコースと人道協会』知泉書館
- Hume, D. (2000(1739-1740)), *A Treatise of Humane Nature*, ed. by David Fate Norton & Mary J. Norton Oxford University Press
- 渋谷のラジオ 渋谷社会部「長崎からみらいへー被爆講話と若者たち」
2016年11月29日放送分 出演：松下みどり、松永幸子他
同上、2017年8月8日放送分 出演：大島ミチル、松永幸子他
同上、2018年5月29日放送分 出演：東京純心女子高校生(山田、田中)、松永幸子他
同上、2021年6月29日放送分 出演：東京純心女子高校生(斎藤、山鹿)、松永幸子他
長崎市公式HP <https://www.city.nagasaki.lg.jp> (最終アクセス日：2023年2月22日)
NHK オンライン「2015年広島・長崎・全国調査 被爆70年原爆と平和の意識は」
<https://www.nhk.or.jp/d-navi/sp/graph/hibaku70/> (最終アクセス日：2023年2月24日)